



# No.3

# 栃木県佐野市

## I. 基本情報

## 主な活動種別

(運営主体) 委託先 佐野市教育委員会  
 再々委託先 非営利活動法人ためまアスレチッククラブ

吹奏楽

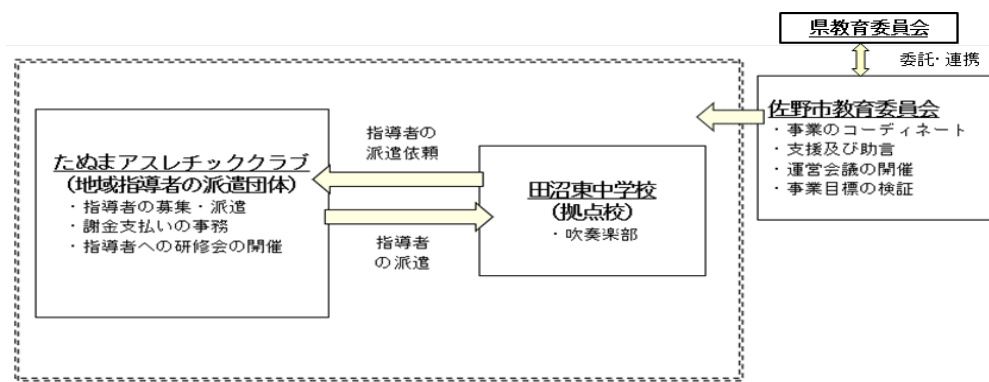
### (事業目標)

本県では、地域部活動の着実な推進と本県の実態に合った部活動改革の方策を検討するために、地域文化部活動と地域運動部活動に係る実践研究を同一中学校で実施し、課題や成果を検証することとした。

#### 【具体的な目標】

- 部活動顧問の時間外勤務総時間数の削減
- 専門的な文化技術指導による生徒の意欲や技術の向上
- 教員の負担感の軽減
- 地域における指導体制の構築

## 団体・組織等の連携



## II. 活動概要

### 【県における活動概要】

事業の開始にあたり、県においては年間2回の部活動改革推進会議を開催し、拠点校における実践研究の成果や課題を検証するとともに、国の動向を踏まえた本県の部活動改革について検討した。なお、本県は運動部活動と文化部活動の地域移行を一体的に進めることを目標としていることから、文化部・運動部関係者の合同事業として実施した。

### 【市における活動概要】

拠点校においては、教員、生徒、保護者に地域部活動を実施することになった背景や目的について説明する機会を設け、事業について理解を図った。また、拠点校、運営団体、市教育委員会が参加する研修会を5月に開催し、留意事項を確認し、教員と地域指導者が同じ認識のもと、地域部活動を開始できるように準備を進めた。

6月から、月2回の活動を基本的に学校施設内において活動を開始し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う活動禁止期間を除き、地域指導者による指導を行った。また、活動の様子を学校ホームページ等に掲載し、周知を図った。

活動開始後の10月には、拠点校、運営団体、市教育委員会が参加する会議を開催し、実施状況の確認や指導方法に関する協議を行った。また、指導者派遣が終了した1月には、12月に実施したアンケート調査の結果を分析し、成果と課題を検証した。

なお、会議の際には、顧問と地域指導者の打合せの時間をもち、活動方針の共有を図る機会とした。

## III. 成果・課題

### 本事業による成果

地域部活動推進事業に関するアンケート調査を実施し、成果として次の回答が得られた。

#### 【教員】

- ・週末に休養をとることができるようになった。
- ・教材研究に充てられる時間が増えた。

#### 【生徒】

- ・技能が向上した。
- ・部活動がもっと好きになった。

#### 【地域指導者】

- ・生徒の意欲や技能の向上が感じられた。

#### 【保護者】

- ・学校と指導者の連携が取れているのであれば、地域で部活動ができることは望ましいことである。
- ・子どもが、専門的知識を備えている地域指導者の指導を受けられることは良いことだ。

### 指導、運営上の工夫

#### ○児童・生徒への指導に関する工夫

##### 【スムーズな移行に向けた工夫】

- ・地域指導者の指導の実施にあたり、はじめの2回の活動は教員と一緒に携わることとした。理由として、指導者と教員が対話し、生徒の活動状況、必要な配慮や留意点などの情報の共有が必要だったからである。その後の指導者のみの活動に円滑に移行することができた。

#### ○運営上の工夫

##### 【連絡体制に関する工夫】

- ・欠席生徒がいた場合の家庭への連絡体制を整え、安心して活動ができるように配慮した。急に地域指導者の都合がつかなくなった場合の連絡体制や対応についても事前に共有した。

### 今後に向けた方針・方向性

#### 【新たな体制・組織の構築】

地域移行を図っていくためには、事業実践による成果と課題を十分に踏まえ、運営団体の確保や地域の実状に合った新たな体制や組織づくりなどについて検討することが重要である。その際には、教育委員会と文化芸術関係団体の所管部署と成果や課題、取組状況などについて情報共有を図った上で、連携する必要がある。

#### 【兼職兼業による指導者確保について】

・時間外勤務時間が長時間となっている現状を十分に踏まえた上で、教員による兼職兼業によって指導者を確保することを手段の一つとして検討する必要がある。

#### 【周知・啓発について】

・拠点校以外の教員、生徒、保護者に対して、学校部活動から地域部活動への移行の必要性や現状について、周知啓発する。